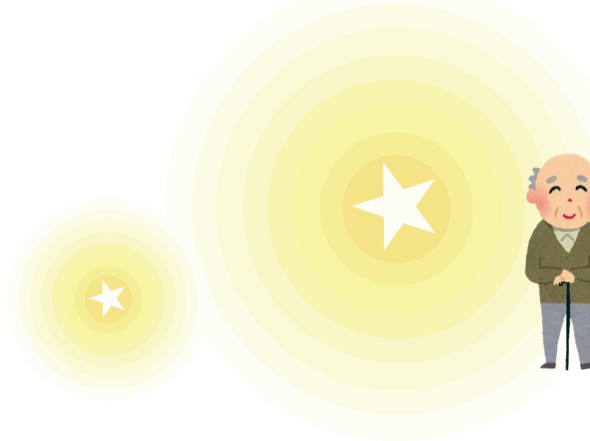


# 第3次さむかわ男女共同参画プラン(平成23年度～27年度)

平成27年度及び5年間の事業実績評価報告



～男女がともに輝くように～



さむかわ男女共同参画プラン推進協議会

### 【評価の対象】

#### ①事業実施担当課が実施する各事業の評価

各事業ごとに、事業実施担当課が自己評価を行い、協働文化推進課において、その実施状況をとりとまとめ、さむかわ男女共同参画プラン推進協議会（以下「推進協議会」という。）に報告し、意見を伺う。

#### ②基本目標の評価

第3次さむかわ男女共同参画プランで定める4つの基本目標の評価は、各事業の評価内容を踏まえ、推進協議会において実施する。推進協議会では、各基本目標が計画期間の中でどの程度進んでいるのか、遅れている部分についてはどのようにして進めるべきかなどについて、総合的な広い観点から評価するものとする。

なお、この基本目標の評価結果は次期計画の策定に関し重要な参考資料とする。

### 【各事業の評価基準】

事業実施担当課が、目標の「達成度」、「今後の方向性」について自己評価を行う。判定区分は下記のとおり。

#### 「目標の達成度」

- A：概ね目標達成
- B：目標に向け事業が遅れている
- C：目標に向け事業がほとんど進んでいない

#### 「今後の方向性」

1. 更に充実強化していく
2. 計画どおり取り組む
3. 一部見直しが必要
4. 事業の休止または廃止



＜基本目標Ⅰ あらゆる分野での男女共同参画の促進＞

施策の基本的方向 1. 政策や方針決定過程などへの女性の参画の促進  
 施策の内容(1) 事業所等への女性登用の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (平成27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (平成27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
1	管理職への女性登用の推進		9	11	20	20	20	前年度に比べ少し下がっているが、実績が目標の7割であることから概ね目標値を達成できる見込みである。今後、女性職員の比率が低い年代もあるため、目標値については検討が必要である。	A	平成27年度の全国平均は7.7%であることから、町の現状とほぼ同様であり、公平な人事行政が行われているものと評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性職員の採用年度による数のばらつき等にもよるので、年度ごとの違いがあるので、評価はつけにくい。目標値に近づけることは必要であるが、女性の積極的採用やジョブローテーションなど具体的な取り組みを実施することが課題である。</li> <li>職員全体の人数に占める女性の割合と関連してくること、また、管理職という役職に対する個々人の能力や適性も大きく影響することから、一概に目標値への達成だけが評価の対象とはならないと考える。今後引き続き女性管理職の比率向上を図ろうとするならば、全職員に占める女性職員の比率を考慮することや優秀な人材を確保(中途採用)すること等を複合的に検討していく必要がある。</li> <li>採用段階において、男女比を同率にできない現状がある中で方策として考えられることとして、短期的には一般企業のように優秀な人材を中途採用したり、他の分野から勧誘したりする方法が考えられる。長期的には、管理職への女性登用率を上げるならば、採用後の早い段階から、将来の管理職に育てるための人材育成に取り組む必要がある。それと並行して、女性の働きやすい職場づくり、子育て支援の充実が欠かせない。</li> <li>前年度より下がる。「女性の比率が低い世代もある」とのことだが、労働環境の整備や男女の比率など、採用時からの育成を意識した対策も必要と思われる。</li> </ul>	A	当初の目標値を変更していることから、当初と比較することは難しいが、実績は概ね目標値を達成できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>20%を目標値として掲げた平成25年以降、実績が年々下がっている。女性管理職の定年退職に加え、対象となる女性職員(50歳以上)が少ないことが理由と伺っているが、今後の女性管理職登用に向け、女性職員を育成するプログラムを実施するなど、具体的な工夫を図り、女性登用を推進してほしい。</li> </ul>	総務課
	事業所としての町の取り組みとして、能力や意欲のある女性の管理職への登用を推進します。	管理職の職員数における女性の割合(%)	18	19	18	16	13								
2	勤労者実態調査の実施		50				55	アンケートの回収実績値が目標値を下回るので、様々な機会を利用し実施・協力について情報発信方法の検討が必要。	2	3年ごとの実施のため平成27年度は未実施。次回は平成29年度実施予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>経年的な傾向を読み解くためには、ある程度の回収率が求められている。目標値とのかかなりの乖離があるので、次回調査時には、目標値を下げるのではなく、目標値を達成するための方策を講ずること。</li> <li>また、調査項目について、社会情勢の変化や労働をめぐる法制度などの変化もあることから、通常の項目に加えた設問も必要ではないか。例えば「女性の活躍推進法」に関連した質問項目などの追加。できれば、事前に協議会に設問項目などの情報提供や意見を求めることも必要と考える。</li> </ul>	A	実施した2年度は調査票の回収率が目標値を下回ったが、3年毎に調査を実施し、傾向を読み取ることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査票の回収率の低下が問題なのであれば、回収方法について工夫をすればよいと考える。問題は回収率ではなく、調査結果がどうであったか、またその結果をもとにどのような考え方でどのように施策に反映させようとしているのかを見えるようにする必要があると考える。回答する事業所や人に対して、きちんとフィードバックすることが重要と考える。</li> <li>3年ごとの実施で昨年今年と非実施であるが、26年度の回収率がとても低いので、アンケート方法の見直しも含めて、回答率を高めるための準備をしてほしい。</li> </ul>	産業振興課
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、女性登用の向上を図ります。	調査票の回収率(%)	43				35								

施策の内容(2) 町審議会などへの女性委員の登用

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
3	女性委員登用の推進		22	24	26	28	30	地方自治法(第202条の3)に基づく審議会等の女性の登用状況 該当する審議会等数 25 総委員数 262人 うち女性委員数 49人 女性委員比率 18.7% 公募委員の選考にあたっては、男女比に配慮して女性委員の登用を進めているが、委員の選出を団体や組織に依頼するケースが多く、その団体や組織の特性から女性が少ないといった個別の状況もある。また、職を指定している場合に、その職に女性が就いていないことも多い。 今後は、選出方法の工夫・選出団体への女性登用の意識づけに取り組む必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度(H26年度18.9%)より登用率が若干下がったため、目標値に及ばず更なる取組が必要である。審議会等の所管課への働きかけを行うとともに、委員選出団体等に対して女性登用の意識づけ、女性委員選出の働きかけに取り組むことが登用率アップにつながるかと考える。</li> <li>目標値が上がっているのに実績はそのままなので、実質下がってしまった。目標値の設定の根拠に戻り、目標値の見直しも必要。</li> </ul>	B	5年間の実績が目標値を上回る事がなかったため、更に取組が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価Bについては適当(相応)な評価を考える。しかし5年間の間に微増ではあるが1%ずつアップ出来た事は働きかけや意識づけの成果であると思う。第4次プランの28年度の22%の実現に向けて更なる各担当課への理解と協働が必要だと思う。また、公募に関する規則の第4条にあるように男女比もさることながら、年齢比についても検討が必要だと考える。例えばP連に在籍する子育て真っ只中現役(30~40代)にも参加を働きかける等、幅広い世代の参加が重要だと思う。</li> <li>少しずつではあるが、登用率はアップしており、地道な働きかけの結果ではないかと思う。今後も目標達成に向け、粘り強く働きかけを行ってほしい。</li> <li>委員選出団体への意識付けも必要だが、応募方法や広報の工夫によって審議会への関心を高め、広く公募するなどの取り組みを考えてほしい。</li> </ul>	協働文化推進課	
	町審議会などの職指定委員の見直しを図り、女性委員の登用をより一層推進します。	町審議会の女性委員登用率(%)	18	18	17	19	19								2



施策の内容(3) 住民活動などにおける女性リーダーの登用の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
4	女性リーダー育成のための講座の開催		20	20	80	80	80	<p>男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。</p> <p>○男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所 代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。3人×6組のグループ分けを行い講座冒頭にミニ講義「数字で見る男女共同参画!」、リーダーシップの体験型学習として、グループ実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、最後にミニ講義「リーダーとリーダーシップ」を行った。</p> <p>町以外で開催される講座の情報提供5件(2市1町広域連携事業)</p>	B	<p>目標値より実績は大きく下回ったが、少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。</p> <p>・目標値に対し実績がさがっているが、手法を変えて女性リーダーとしての資質向上や住民の参加意識を一層啓発するために取り組んだ結果であり、評価できる。</p> <p>・地味だがグループワークなどの実施形態で積極的な意見交換がなされたことは、意義のあることである。今後集客の方法等を工夫すること、アンケートなどの中身を協議会に情報提供し、今後の講座の内容や方法について協議会委員の意見を聞くことも必要である。行政主導ではなく、住民参加型の方法を追求していくことが必要である。</p> <p>・目標値のたて方に問題があったものの27年度は実質的な企画実施に成果があったことは評価したい。学ぶ場の回数の増加も重要だが「学ぶ場の質」は最も重要で、レクチャー方式から参加型にチャレンジ出来たことは大きな成果。また、託児の準備等の配慮も評価出来る。定期開催に期待したい。と同時に参加を呼びかけるニュース(チラシ?)の改善が必要。タイトルに引きつけられるキャッチコピーにひとひねりが欲しい。</p> <p>・毎年、異なるテーマ設定で講座を開催しているが、人口に占める参加者数の割合から考えると、数年同じ内容で新規参加者の掘り起こしに努めることも一方では必要ではないだろうか。講師の選定については、実際に聞いてみないと本当にニーズに沿ったものか判断が難しい。常に新しいことに知恵を絞るのではなく、よい講師、よい内容ならば、それを数年続けても良いと考える。</p>	B	<p>講座の参加人数という目標値を下回る年もあったが、毎年異なるテーマで、講座や講演会を開催することができた。</p> <p>また、町以外で開催される講座等の情報提供もできた。</p> <p>・(今後に向けて)女性リーダーシップ育成の為の講座のみならず男女問わずに「庶民的に議論する」事を「学ぶ場」が必要だと感じる。いきなりディベートではハードルが高いとすれば、「ディスカッション」を学ぶ場はどうだろうか？自分の考えを言語化して相手に伝え、相手の意見に耳を傾け言葉のキャッチボールをして理解し、議論を深め1つの方向性を定めていく力は男女問わず必要だと考える。自分の意見と相手(もしくは大勢の)意見が違ふ事が前提である事や、「自分には意見がある」という自覚を持つ事(男性に意見してはいけないという無意識のジェンダー)や、意見を頭でまとめる手法や発言方法等スキルを身に付けたり、スキルアップの場があると良いと思う。その様なワークショップで学ぶことで女性が会議に参加し発言出来る人が増える事で審議会への登用率アップが実現できるのでは？と考える。</p>	協働文化推進課		
	女性リーダーとしての資質向上や住民活動への参加意識を一層啓発するための講座を開催します。また、町以外で開催される講座等について情報提供します。	講座の参加人数(人)	73	313	0 (162)	50	18							2	

施策の基本的方向 2. 女性のチャレンジ支援  
施策の内容(1) 女性の人材育成の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
5	女性リーダー育成のための講座の開催(再掲)		20	20	80	80	80	<p>男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。</p> <p>○男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所 代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。3人×6組のグループ分けを行い講座冒頭にミニ講義「数字で見る男女共同参画!」、リーダーシップの体験型学習として、グループ実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、最後にミニ講義「リーダーとリーダーシップ」を行った。</p> <p>町以外で開催される講座の情報提供5件(2市1町広域連携事業)</p> <p>女性リーダーの育成や地域活動等への参画促進につながる講座の開催を検討していきたい。</p>	B	<p>目標値より実績は大きく下回ったが、少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。</p> <p>・目標値よりも実績がさがっているが、手法を変えて女性リーダーとしての資質向上や住民参加への参加意識を一層啓発するために実施した結果であり、評価できる。</p> <p>・地味だがグループワークなどの実施形態で積極的な意見交換がなされたことは、意義のあることである。今後集客の方法等を工夫すること、アンケートなどの中身を協議会に情報提供し、今後の講座の内容や方法について協議会委員の意見を聞くことも必要である。行政主導ではなく、住民参加型の方法を追求していくことが必要である。</p>	B	<p>講座の参加人数という目標値を下回る年もあったが、毎年異なるテーマで、講座や講演会を開催することができた。</p> <p>また、町以外で開催される講座等の情報提供もできた。</p>	協働文化推進課		
	女性リーダーとしての資質向上や住民活動への参加意識を一層啓発するための講座を開催します。また、町以外で開催される講座等について情報提供します。	講座の参加人数(人)	73	313	0 (162)	50	18							2	
6	就労支援パソコン講座の開催		4	4	4	2	2	<p>神奈川県、茅ヶ崎市と共催でパソコン講座を開催。</p> <p>○就職に役立つパソコン講座 日時:平成27年11月24日(火)~26日(木) 場所:茅ヶ崎市勤労市民会館 参加者:10人(男女比不明)</p>	A	<p>1回の開催であったが、ワードとエクセルの2講習を開催することができた。</p> <p>町単独でパソコン講座の実施は難しいため、今後も県や近隣市と連携に努める。</p> <p>・参加人数の少ない原因を考える必要がある。広報の方法等工夫する必要がある。就労につなげるのであれば、実際に就労につながったかの検証をする必要がある。県や近隣との連携とのことだが、就労やスキルアップを目的とした講座であれば、内容等の充実が必要である。</p> <p>・就職等においてパソコンを使いこなせることは一般的に採用選考において優位になるものの、本事業のような2、3日の講座では事業所が望むような技能レベルに達するとは考えにくい。就労支援として本事業の目的と方法について再考の必要があると考える。</p> <p>・町単独の講座実施は困難かと思うが、幼児のいる女性は町外での参加は難しいのでは。託児付きであれば参加人数、参加幅も広がったのでは。講座受講したその後就労に繋がったのか声を聞かせていただければ。</p> <p>・ワード、エクセルができることが果たして、本当に就労支援や就労に優位に繋がるのか根拠が不明確であり、実際はどうか調査する必要がある。どのようなスキルを持っていることが業所等で活躍できるのかを把握することで、本当にワード、エクセルができることが必要か、それ以外のスキルなのかを判断し、講座内容を見直すことも大切である。</p>	A	<p>講座の開催回数は目標を下回ったが、平成26・27年度と2つの講習を開催することができ、能力開発機会の充実を図る事ができた。</p> <p>・受講希望者は多いと思うので周知の仕方を工夫し多数の目に入るようにしていただきたい。</p>	産業振興課		
	中高年の再就職支援、女性の就労支援、スキルアップなどのためのパソコン講座を開催し、能力開発機会の充実を図ります。	開催講座数(講座)	4	0	0	1	1							2	



施策の内容（2）女性の社会参画に関する情報提供

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
7	男女共同参画に関する講座の情報提供		4	4	4	4	4	男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ○男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) ○2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89人(男性17人、女性72人) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 町以外で開催される講座の情報提供。 ○2市1町広域連携事業4件 共に生きるフォーラムふじさわ2015「私たちはどうやって働き方をかえたのか～家庭・地域で活躍する男たち～」ほか 講座等の情報を広く集めて提供することで、男女共同参画について学ぶ機会を増やすことができるが、情報量には限界があるためどのような媒体が効果的か調査研究する必要がある。	A	広報紙やホームページ等により、町内外で開催される講座等の情報を提供することで、自己研鑽、スキルアップ等の支援をすることができた。	・情報提供については、情報難民がないようにあらゆる手段や機会を利用し、提供していくことが望ましい。各講座・行事など参加者に対し、どのような広報の機会を知り、参加したかをアンケートなどに必ず項目にいれ、効果的な広報を展開することが必要である。回数を目標数値に設定し、結果を検証することは、なじまない。	A	目標値の4回を越えて情報提供できたことで、スキルアップ等の支援につながる機会が増えた。		協働文化推進課
	町内外で開催される、資格取得やスキルアップのための講座について情報提供回数を提供します。(回)	広報紙、ホームページ等での情報提供回数(回)	7	6	5	6	6		1						
8	求人に関する情報提供		※12	※12	※30	※30	※30	ハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市と合同で湘南合同就職面接会を開催した。 日時:平成28年1月27日(水) 13時～15時半 場所:藤沢商工会館ミナパーク  町単独での面接会の実施は難しいため、ハローワークや近隣市と連携が必要。	A	求人情報を提供する企業数としては、ほぼ目標値を達成している。今後もハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市とともに湘南合同就職面接会を実施するとともに、合同面接会の情報発信に努める。	・情報提供については、情報難民がないようにあらゆる手段や機会を利用し、提供していくことが望ましい。各講座・行事など参加者に対し、どのような広報の機会を知り、参加したかをアンケートなどに必ず項目にいれ、効果的な広報を展開することが必要である。回数を目標数値に設定し、結果を検証することは、なじまない。	A	目標値を、求人情報を提供する企業数に変更してからは、ほぼ目標値を達成することができた。町単独での面接会の実施は難しいため、ハローワーク藤沢や近隣市と連携し情報提供をする事ができた。		産業振興課
	役場ロビーに設置した端末機でのハローワークの求人情報の検索や、求人情報誌・チラシの備え付けによる求人情報の閲覧をできるようにすることで、求人情報を提供します。	※H23～H24年度指標求人情報誌・チラシでの情報提供回数(回) ※H25年度～の指標湘南合同面接会で求人情報を提供できた企業数(社)	0	0	31	28	28		2	・役場ロビーに設置した端末機でのハローワークの求人情報の検索やチラシの閲覧の活用率は不明だが、人の出入りが多い役場ロビーより、町民センター1階のロビーの方が落ち着いた中で、人目をあまり気にせずゆっくり閲覧できると思う。	A				
9	生涯学習に関する情報提供		6	6	6	6	6	男女を問わず、生涯学習に関する情報を提供した。 1.さむかわ町民大学 2.出前講座 3.4.生涯学習人材登録制度「ステップアップ」メニュー紹介用/登録者募集用 5.さむかわ生涯学習総合案内 6.広報さむかわ1月号特集ページに掲載 ○町ホームページの関連ページ訪問数は518件。	A	「さむかわ生涯学習総合案内」を町内の各施設に配下し、広く生涯学習に関する情報提供を行った。 紙媒体は文字数等情報量に制限があるため、ホームページ、Twitter、メール配信サービスを活用し情報量の充実をしていく。	・情報提供については、情報難民がないようにあらゆる手段や機会を利用し、提供していくことが望ましい。各講座・行事など参加者に対し、どのような広報の機会を知り、参加したかをアンケートなどに必ず項目にいれ、効果的な広報を展開することが必要である。回数を目標数値に設定し、結果を検証することは、なじまない。	A	男女年齢を問わず情報提供を行ったことで、自己研鑽のための学習活動の支援につながった。		協働文化推進課
	さむかわ町民大学、出前講座、生涯学習人材登録等の学習情報を提供し、自己研鑽のための学習活動を支援します。	広報紙、ホームページ、パンフレットでの啓発回数(回)	6	6	6	6	6		2						
推進協議会評価 【基本目標Iあらゆる分野での男女共同参画の促進】			【平成27年度評価】 ○町職員の女性の登用の推進には、優秀な人材を確保するため中途採用など採用方法を検討するとともに、働きやすい職場づくり(子育て支援、介護支援など)の充実や能力や適性に応じた人材育成に取り組む必要がある。  ○あらゆる分野で女性が活躍できるための講座など実務を見据えた参加型の内容が望ましい。主体的に考え、力をつける機会として資質の向上に結び付くもの考える。  ○企業、労働者に対し社会情勢の変化や労働環境、女性活躍推進法など取り組み状況について丁寧に聴取し、にきちんとフィードバックする必要がある。					【5年間の評価】 ○様々な場面で女性の活躍が見られるようになってきたが、男女共同参画に結び付く環境整備や人材育成の更なる充実が求められる。  ○男女共同参画の意識啓発を継続するとともに、事業や取り組みを検証し、あらゆる分野で女性が活躍できるよう、より効果的な事業を進めてほしい。							



〈基本目標Ⅱ 男女の人権の尊重〉

施策の基本的方向 1. 異性に対する暴力の根絶  
 施策の内容(1) 配偶者などからの暴力防止に関する意識啓発と被害者への支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
10	暴力防止に関する意識啓発		2	2	2	2	2	○ホームページの修正を行った。なお27年度における町ホームページの関連ページ訪問数(庁舎外)は162件。 ○2市1町広域連携のなかでDV防止に向けて啓発チラシを作成した。 ○窓口や公共施設のトイレにチラシ等を置き、「DV気づき講座」や相談窓口の情報提供を行った。 今後も様々な機会をとらえ、情報発信を行っていけるよう検討していく。 ・相談窓口やチラシの置き場など、子育て支援センターや茅ヶ崎保健所などの連携や細かい配慮を大いに評価。	A	寒川町子育て支援センターに伺い、状況をお聞かせいただいた上で、チラシ等の配架にも協力いただくことができ、役場本庁舎や図書館、公民館以外の場所での情報発信を行ったため。  ・11月の女性に対する暴力をなくす運動の時期にタイムリーに広報さむかわに特集を組め情報発信できた事に対して評価したい。また、表紙にもインパクトも有り、又、わかりやすい言葉でDVについて丁寧に書かれていた。また子育て支援センターと協働する等Aの評価に値すると思った。特に被害者のみならず加害者が文字面から自覚し自分の日々の行為がDVであることを知るきっかけになったと想像する。毎年大々的に特集を11月に組むことは困難かと思われるが11月は女性に対する暴力をなくす運動月間として1ページだけでも良いので掲載し、意識啓発を希望する。  ・広報については継続した実施が必要である。  ・相談窓口では言いづらい、行きづらい方やDVだと本人も気付いていない方もいる。チラシを置いたり配布した後何か変化があったのか、各施設とその後の連携も必要なのでは。  ・相談窓口やチラシの置き場など、子育て支援センターや茅ヶ崎保健所などとの連携や細かい配慮を大いに評価。	A	全町民に行き渡る広報紙に、6ページに亘る特集を組むなど、効果的な意識啓発が行えたため。  ・中学生、高校生と若年層への啓発も引き続き行って頂きたい。  ・相談実績が少ないからと安心せずに、より相談しやすくなるような環境整備を続けて頂きたい。	町民窓口課		
	広報紙等を通じてDVに関する情報発信を行い、暴力防止に関する意識啓発を行います。	広報紙、ホームページでの啓発回数(回)	0	1	1	2	1		1						
11	DV等に関する相談や関係機関との連携		5	5	5	5	5	○関係機関との会議 1回 ○関係機関との情報交換 1回 ○町で相談を受けた場合には、茅ヶ崎保健福祉事務所と連携しながら進めている。また茅ヶ崎保健福祉事務所で受けた相談であっても、各種手続きで来庁されるような場合は連携を取り合っている。 今後も、会議での情報交換に限らず、適宜、情報共有できるよう求めていく。	A	・会議等は、緊急性がない場合でも、情勢の変化に応じた対応が必要な場合があるので、設定した目標は達成していただきたい。関係機関との連携は、引き続き密にしていきたい。  ・被害者支援が円滑に行われたことは評価できる。しかし、被害者にとってDV等に関する相談を行うことはハードルが高いものである。今後も、会議での情報交換に限らず、日常的な情報連携に取り組んでほしい。また、相談したくてもできない、どこに相談していいかわからないといった状況を生まないためにもホームページや広報誌による情報発信を引き続きお願いしたい。  ・相談窓口やチラシの置き場など、子育て支援センターや茅ヶ崎保健所などとの連携や細かい配慮を大いに評価。	A	目標値と実績に差はあるが、実際の相談等においては、関係機関との連携は密に行われており、被害者支援は円滑に行われていたため。  ・相談実績が少ないからと安心せずに、より相談しやすくなるような環境整備を続けて頂きたい。	町民窓口課		
	関係機関と連携しながらDV等に関する相談を受けるとともに、緊急一時保護事業に関する協定に基づき、DV被害者の緊急一時保護に向けた支援を行います。	関係機関との情報交換機会の回数(回)	1	1	1	2	2		1						

施策の内容(2) セクシュアル・ハラスメント防止対策の推進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
12	町役場におけるセクハラ防止体制の充実		0	0	0	0	0	セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員及び相談員を設置し、体制を整えている。27年度においては第三者からの通報、相談はなかったが、26年度に相談が1件あったことから、引き続き再発防止に努めていく。	A	・体制を整えていることは評価する。相談はない方がよいのは当然のことであるが、目標値を相談件数に設置するのは不適切であると考え。防止策を整えることが結果としての「0」の評価につながる。目標を定めるのであれば、庁内での研修の充実などの実施に目標を定めるべきではないかと考える。  ・仮に通報や相談があったということならば、かなり重度であると想像できる。したがって、苦情等の申し入れがなかったことが、セクハラがないと言い切けるには、無理がある。防止のための職場研修などを実施し、普段の行動や言動を振り返ったり、見直したりする機会を設けることも必要である。  ・目標値0で達してはいるが、更なる体制の環境整備と啓発、相談窓口の整備等、引き続き意識的な継続を望む。	A	体制が整っていたことで、5年間の実績件数はほとんどなく、目標値を達成できている。  ・相談実績が少ないからと安心せずに、より相談しやすくなるような環境整備を続けて頂きたい。	総務課		
	町職員間におけるセクシュアル・ハラスメントの根絶と、相談体制の充実を図ります。	相談と処分の件数(件)	0	0	0	1	0		2						
13	セクハラ防止に関する啓発や各種相談窓口の情報提供		2	2	2	2	2	○ホームページの修正を行った。なお27年度における町ホームページの関連ページ訪問数(庁舎外)は76件。 ○相談者には相談窓口の情報提供を行った。今後、より有意義な情報提供をどのように実施していくのかを検討していく。	B	ホームページの修正等を実施し、周知を図ったが、広報紙については掲載できなかった。  ・町民全員がホームページを見られる環境にないことから、広報紙による情報提供は重要な役割を果たす。ぜひ、ホームページのみならず、広報紙による啓発も併せて行ってほしい。  ・広報については継続した実施が必要である。  ・啓発や情報提供を行うのであれば、適時複数回にわたって様々な手段により実施する必要があると考える。啓発回数が1回で、しかもホームページのみというのではその効果は限定的と考える。  ・目標値0で達してはいるが、更なる体制の環境整備と啓発、相談窓口の整備等、引き続き意識的な継続を望む。	B	ホームページでの啓発を実施し、周知を図ったが、広報紙における周知はできなかったため。  ・町民全員がホームページを見られる環境にないことから、広報紙等による情報提供は重要な役割を果たす。今後は、ホームページだけでなく、より多くの町民に周知できる方法について検討し、情報提供を行ってほしい。  ・過去5年間は毎年の目標に対して実績が未達であり、事業としての在り方を抜本的に見直す必要があると考える。  ・相談実績が少ないからと安心せずに、より相談しやすくなるような環境整備を続けて頂きたい。	町民窓口課		
	広報紙などを活用し、セクシュアル・ハラスメント防止に関する啓発や関係機関における各種相談窓口の情報提供を行います。	広報紙、ホームページでの啓発回数(回)	0	1	1	1	1		2						



施策の基本的方向 2. 人権尊重のための対策  
 施策の内容(1) 人権侵害に関する支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性						
14	各種相談の実施や人権に関する情報提供		3	3	4	4	4	○特設人権相談及び街頭啓発活動 6月(1ヶ所)・12月(2ヶ所)実施 ○産業まつりでの啓発活動 11月実施 啓発の効果を量ることは難しいが、現状実施しているもの以外の各種行事などにおいても意識啓発の場を設けるよう検討していく。	A	街頭啓発において、多くの町民に啓発物品と併せてリーフレットを配布し、意識啓発に努めた。	・継続した啓発活動が重要である。町民がイベント等で集まる機会をさらに捉え啓発していくことが望ましい。  ・目標が啓発活動回数で4回は達成しているためAの評価は理解できるが、人権侵害に関する支援として評価できるかは、はなはだ謎。 (今後に向けて)第4次プランの「施策の基本的方向」に明文化した様に、性同一性障がいに対して、今後はリーフレットの配布等の情報提供を期待したい。現在神奈川県では学生にリーフレット等を配布している様子だが性的マイノリティ当事者は体と意識のはざままで違和感をおぼえ悩み苦しんでいるはず。性的マイノリティの人権も視野に入れた働きかけも必要と考える。この事はNo.12、No.13の働く場面でも同様の理解が必要で差別や偏見、雇用にも係る大きな課題となると考える。 上記DVに關した事や性的マイノリティに関する意識啓発を人権週間と定められた12月4日~10日に合わせて12月号の広報で特集としても良いかも知れない。	A	地道な啓発活動を積み重ねることができたため。	・相談実績が少ないからと安心して、より相談しやすくなるような環境整備を続けていきたい。	町民窓口課
	人権相談など各種相談を実施し、関係機関との連携を図ります。また、人権に関する様々な情報提供を行うとともに、街頭での啓発活動などを通じて町民への意識啓発を行います。	街頭での人権啓発活動回数(回)	6	3	3	4	4		1						

施策の基本的方向 3. 生涯を通じた心身の健康づくりへの支援  
 施策の内容(1) 男女の心とからだの健康づくりへの支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	実績	実績	実績	実績	実績		今後の方向性						
15	成人健康相談事業		50	50	50	50	50	検診や講座の受講者が健康相談もしていくことが増えている。男性より女性の検診受診者、受講者が多いことから、相談数も女性の方が多い。	A	相談回数が目標値を上回った	・相談の内容がわからないので、どのような対応がされているのかがわかりませんので、評価がしにくい。相談内容について情報提供を望む。女性が、長い人生を、寝たきりにならず健康に過ごすためには、更年期障害の軽減、中高年期以降の肥満の予防、食生活習慣、適切な運動習慣などの指導が重要です。ニーズが多いのであれば目標値の設定の数値の変更が必要である。	A	相談者のニーズに応えられている		健康・スポーツ課
	生活習慣病予防や健康維持・増進のための相談を実施し、町民の健康づくりを支援します。	相談の実施回数(回)	60	114	298	63	81		2						
16	心とからだに関する講座の開催		280	280	280	280	280	ヨガセミナー 1コース2日を2コース実施。延べ191人。健康普及講座 ①1コース2日(女性限定コース61人参加) ②1コース2日実施。(男性4人、女性70人) ①、②で延べ135人。	A	リンパマッサージやアンチエイジングなど、講座内容をニーズに合わせて、参加者が増加した。	・参加者が多いのはニーズに応えていることと思う。こころと身体に関する講座であれば、思春期、妊娠・出産期、更年期、高齢期等各ステージに応じた課題に対応することも必要と思われる。例えばベビーヨガ、産後ヘルスケア、子育てママの骨盤底筋エクササイズなどの幅広いメニューでの実施も必要と思われる。	A	講座内容を検討しながら、ほぼ目標の参加者を達成した。		健康・スポーツ課
	「ヨガセミナー」「休養とこころのセミナー」など、心身の健康維持・増進を目的とした講座を開催します。	セミナー参加延べ人数(人)	294	243	315	296	326		2						
17	父親・母親教室の開催		100	100	100	100	100	4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫(パートナー)向けのイクメンテキストを配布。	A	夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。	・満足度が多いことは重要だと思いますが、満足度を数値目標にするのは適切でないと思われます。数値目標にするのであれば、参加数を目標値におくべきである。対象妊婦の割合が参加したかどうかより、啓発が浸透しているかが測れる。	A	これまでの受講勧奨に加え、イクメンテキスト配布により、夫の参加率が上昇した。	・徐々に夫の参加が増加しているとのことだが、今後も引き続き夫の教室参加に向け、周知方法や開催日など様々な工夫を図ってほしい。	健康・スポーツ課
	初妊婦とそのパートナーを対象に、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての知識の普及と意識の啓発を図ります。	参加者の満足度(%)	95	96	94.9	95	97		2						
18	母子訪問指導事業		900	900	900	1,000	1,000	低出生体重児など継続的な訪問が必要なケースの増加により、訪問件数が増えている。	A	訪問件数の増加と、適切な時期に実施ができていて目標を達成できた。	・低体重児が増えている理由として「高齢出産」を上げたが、職場環境(長時間労働、長距離通勤、母性保護行使等)、食生活、日常健康管理、喫煙などの問題も考えられる。適切な対応をすることは評価するが、低体重児等の減少するための健康指導等も重要な課題である。	A	地域の中で安心して子育てができるよう、個別訪問を実施し、不安を軽減することができた。		健康・スポーツ課
	乳幼児を育てている家庭を訪問し、育児状況の確認とともに、子供と養育者の心とからだの健康づくりへの助言等を行います。	母子訪問合計件数(件)	954	1,041	1,172	1,493	1,704		1						



施策の内容（１）男女の心とからだの健康づくりへの支援

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
19	母子健康相談事業（7か月児相談2歳児歯科相談）		65	70	75	80	85	それぞれの時期の課題を解決できるよう、7か月相談と2歳児歯科相談を別日程で実施。7か月相談 月1回 来所率91.4% 2歳児歯科健診 月1回 う蝕対策予防事業として、2歳児の歯科保健の指導を充実させ、来所率が72.2%に上昇した。	A	7か月児、2歳児の相談を別日に実施し、きめ細やかな対応を行うことができ、来所率も上昇した。  ・「評価の理由」に参加者アンケートで何%の人が「良い」と回答しているか明記されるとAの評価の信ぴょう性がわかるので、ザックリとした数字だけでも載せてほしい。	来所率の向上への努力を評価します。来所できない理由等がわかれば、100%に向けた改善が図れると思われる。	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	子どもの発育・発達過程にあわせ、適切な支援ができるよう、柔軟に相談の体制を変更した。来所率も上昇し、来所者の不安を軽減できた。	健康・スポーツ課
	来所による相談事業の開催を通じて、乳幼児を育てる家庭の、子どもと養育者の心とからだの健康づくりを支援します。	来所率(%)	70	71	68	71.7	81.8		1						
20	スポーツ教室の開催		81	162	189	216	243	参加実績：弓道教室10人、テニス教室62人、卓球教室21人、ボルダリング教室10人、フライングディスク教室13人、チャレンジスポーツ54人、親子テニス教室31人  昨年度実績より人数が減少してしまったが、チャレンジスポーツの種目が少なかったため参加者が半分となってしまった。今後は男女とも気軽に参加出来る種目等の実施を検討していく。	A	若干、目標値を下回ったが概ね目標を達成した。今後、更なる参加者数の増加のため魅力ある教室の開催を企画する必要がある。  ・「評価の理由」に参加者アンケートで何%の人が「良い」と回答しているか明記されるとAの評価の信ぴょう性がわかるので、ザックリとした数字だけでも載せてほしい。	参加目標の設定数値の根拠が不明である。生涯健康であるためにはスポーツはかかせない要素である。参加者の性別・年齢別などわからないので評価できない。また、女性の参加やスポーツ実施率が低いと言われている20～30歳代のスポーツ参加が図られたのかなど内容の精査を行われなければ評価は困難。	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	概ね、心とからだの健康づくりの役割を担うスポーツ・レクリエーションに多くの町民に親しんでいただける教室の開催が出来たと評価している。	健康・スポーツ課
	心とからだの健康づくりの役割を担うスポーツ・レクリエーションに多くの町民が親しめる機会として、初心者向けの教室を開催します。	教室への参加者数(人)	150	91	123	288	201		3						
21	スポーツ大会の開催		1,200	1,260	1,320	1,380	1,450	参加実績：さむかわスポーツデイ1553人、レクリエーションフェスティバル492人、武道フェスティバル450人、観桜駅伝競走大会628人、チャレンジ14915人  昨年度実績より大幅に数字が伸びた要因としては、27年度に初参加したチャレンジデーに多くの方に参加いただけたことが大きい。	A	ほぼ毎年度目標数値は上回った。初参加のチャレンジデーの実施が大きく参加者数を伸ばせた。  ・「評価の理由」に参加者アンケートで何%の人が「良い」と回答しているか明記されるとAの評価の信ぴょう性がわかるので、ザックリとした数字だけでも載せてほしい。	参加目標の設定数値の根拠が不明である。生涯健康であるためにはスポーツはかかせない要素である。参加者の性別・年齢別などわからないので評価できない。また、女性の参加やスポーツ実施率が低いと言われている20～30歳代のスポーツ参加が図られたのかなど内容の精査を行われなければ評価は困難。	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	多くの町民等に参加いただけた各スポーツ大会を開催し、町民の健康づくりに役立てることが出来たことを評価する。	健康・スポーツ課
	町民がやりがいを感じたり目標設定しながら、継続的に健康づくりのためのスポーツ・レクリエーション活動に取り組めるよう、スポーツやレクリエーションの大会を開催します。	大会への参加者数(人)	1,311	2,166	2,536	1,252	18,038		2						
22	公民館講座の開催		7,000	7,050	7,100	7,150	7,200	公民館まつりが天候に恵まれ来館者数4600人(概算)と好調だった。13%増の8664人の参加だった。公民館まつりは老若男女問わず参加者、来館者がいるので今後も続けるが、集計方法を確立していきたい。まつりの参加人数に左右される傾向がある。	A	講座4450人 読み聞かせ386人 まつりと読み聞かせを除く参加人数4450人。概ね達成できたといえる。  ・「評価の理由」に参加者アンケートで何%の人が「良い」と回答しているか明記されるとAの評価の信ぴょう性がわかるので、ザックリとした数字だけでも載せてほしい。	参加目標の設定数値の根拠が不明である。講座の内容、参加者の年齢・男女別などがわからないので評価をすることができない。社会教育の場としての公民館活動のなかに男女共同参画視点をいれた講座の開催やジェンダーの視点をいれた読み聞かせなどがされたかどうかとも評価の基準として考えるための情報が無い。評価するための情報提供を望む。	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	目標値を達成するよう講座を開催し、男女年齢問わず興味を持つような内容を企画立案した。参加しやすい開催日時等の設定に努めた。生涯学習推進員や利用者の会の協力があつた。	町民センター
	公民館講座を通じて健康に対する意識付けを図るなど、町民の健康づくりを支援します。	講座の参加者数(人)	6,982	6,562	7,488	7,339	8,664		2						



施策の内容（2）性の尊重に関する意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
23	父親・母親教室の開催（再掲）		100	100	100	100	100	4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫（パートナー）向けのイクメンテキストを配布。	A	夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。  ・満足度が多いことは重要だと思いますが、満足度を数値目標にするのは適切でないと思われます。数値目標にするのであれば、参加者数を目標値に置くべきである。町内の対象者の何割が参加したかどうかにより、啓発度が浸透しているかが測れる。  ・「評価の理由」に参加者アンケートで何%の人が「良い」と回答しているか明記されるとAの評価の信憑性がわかるので、ザックリとした数字だけでも載せてほしい。	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄(5年間)	健康・スポーツ課	
	妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座を通じて、お互いの性を尊重することの意識啓発を図ります。	参加者の満足度(%)	95	96	94.9	95.3	97		2						

施策の内容（3）性教育の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
24	母子健康相談事業		1	1	12	12	12	相談件数は月1回程度と横ばい。男性からの相談が多い。	A	電話での相談に保健師が対応出来ている。  ・広報について継続した実施は必要である。相談が少ないとあるが、あらゆる広報媒体を使ってさらに広報の充実が求められている。	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄(5年間)	健康・スポーツ課	
	性に関する相談について、電話等で相談に対応するとともに、関係機関が実施する相談事業などの情報を提供します。	広報紙での周知回数(回)	1	12	12	12	12		2						
25	「生きる力」の育成事業		10	10	10	10	10	学習指導要領に基づき、小・中学校の各学年における教科、道徳、総合的な学習の時間等を通して、実態に即した適切な性教育が推進された。今後も社会的な側面での人間尊重・男女平等の観点に基づき、教育活動全体を通して、児童生徒の発達段階をふまえた性教育および様々な性に関する現代的課題(性同一性問題など)にも取り組む必要である。	A	各小中学校において、児童生徒の健やかな心身の育成のためには、性教育は重要な領域の一部である。担任や教科担当を中心に、学年全体や養護教諭と連携を図った性教育の授業実践が行われている。以前行われていた男女別の性教育ではなく、命の誕生やジェンダー、性同一性問題など発達段階に応じた教育実践が行われている。  ・学習指導要領に即した性教育の実施はほぼ達成したと思われます。しかし、性教育のみの他にも、固定的役割分担意識の改善や家庭科の男女共修などの取り組みについての情報提供が必要である。	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄(5年間)	学校教育課	
	教科や道徳の時間、総合的な学習の時間等を通して、性教育を推進します。	性教育実施時間数(時間)	10	10	10	10	10		2						
推進協議会評価 【基本目標Ⅱ男女の人権の尊重】			【平成27年度評価】 ○意識啓発については、広報、ホームページにより情報発信しているが、周知する手段や内容について(広く周知したいものからより専門的なものまで)対象に応じて発信する必要がある。  ○各種相談等受け入れ体制については各関係機関と日常的な情報連携について取り組み、安心して相談できる環境づくりをさらに進めてほしい。  ○生涯を通じた心身の健康づくりに向け、各講座の内容を検討し、ニーズに応じた取り組みを進める必要がある。										【5年間の評価】 ○各関係機関と連携し、意識向上のため情報提供や受け入れ体制の充実を図ってほしい。  ○心とからだの健康づくりについては、概ね目標どおり進められているが、実施内容や取り組みを検証しさらなる充実に結びつけてほしい。		



<基本目標Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）推進のための環境づくり>

施策の基本的方向 1. 就業環境における男女共同参画の促進  
 施策の内容（1）男女平等な雇用の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン（5年間）の評価	第3次プラン（H23～H27までの5年間）評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	実績	目標値	実績	目標値								
26	勤労者実態調査の実施（再掲）		50			55		アンケートの回収実績値が目標値を下回るので、様々な機会を利用し実施・協力について情報発信方法の検討が必要。	2	3年ごとの実施のため平成27年度は未実施。次回は平成29年度実施予定。	・経年的な傾向を読み解くためには、ある程度の回収率が求められている。目標数値とのかかなりの乖離があるので、次回調査時には、目標値を下げるのではなく、目標値を達成するための方策を講ずること。また、調査項目について、社会情勢の変化や労働をめぐる法制度などの変化もあることから、通常の項目に加えた設問も必要ではないか。例えば「女性の活躍推進法」に関連した質問項目などの追加。できれば、事前に協議会に設問項目などの情報提供や意見を求めることも必要と考える。	A	実施した2年度は調査票の回収率が目標値を下回ったが、3年毎に調査を実施し、傾向を読み取ることができた。	・「男女平等雇用の意識喚起」が事業内容として明記されているが、「現状と課題」の欄からは現状が見えてこない。回収するためアンケートなのか？「労働行政の基礎資料」が目的ならば回収率を上げ実態を把握し、行政として平等な雇用に向け企業に働きかける等の事が無いのならアンケートを実施する意味が無いと感じる。評価に対する誠意を感じられない。現状は何で、課題は何かを明記すべき。  ・過去の実態調査は、回収値が目標と比較して下回っているため、29年度実施予定の調査に向けては、回収率を上げる工夫を図ってほしい。	産業振興課
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、男女平等雇用の意識を喚起します。		43			35									

施策の内容（2）雇用環境改善のための支援の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン（5年間）の評価	第3次プラン（H23～H27までの5年間）評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	実績	目標値	実績	目標値								
27	労働相談に関する情報提供		3	3	3	3	3	広報紙の掲載が難しい場合は、ホームページやメーリングリストを活用し、情報提供に努めている。	A	インターネットを活用することで、柔軟かつ効率的に情報提供をすることができた。	・広報については継続した実施が必要である。  ・広報紙やHPでの情報提供は行っているが、相談会など年に数回の実施の周知については寒川町内に設置している掲示板などの活用も有効である。また、町主催の産業まつり等でチラシやリーフレットを配布したり、相談会を開いたりすることも考えられる。  ・労働相談に関する情報提供や労働相談、労働講座開催など、実績が目標値に達している事の評価はするが、町独自の小回りのきく労働相談やもう少し頻度の高い身近な講座の開催なども必要では。（参加率を上げる努力も必要になります）	A	広報紙のみならず、ホームページやメーリングリスト等インターネットを活用しながら効率的に情報提供する事ができた。	・情報提供のため様々な手段を使うこと自体は良いと考える。不特定多数を対象とした広報紙やホームページに加え寒川町工業協会の事業主用メーリングリスト活用したということであるので、今後は労働者側への情報発信として労働組合等へのメーリングリストの活用等も検討してはどうかと考える。	産業振興課
	広報紙やホームページ等で労働相談窓口などの情報提供を行うとともに、相談内容に応じて関係機関を紹介するなど、労働相談に関する情報提供を行います。		3	3	3	3	3								
28	労働相談の実施		1	1	1	1	1	町単独での相談会の実施は難しいため、ハローワーク主催の事前セミナーや相談会を活用した。	A	ハローワーク藤沢等と連携し、実施することができた。	・引き続き連携した取り組みの実施を。  ・労働相談に関する情報提供や労働相談、労働講座開催など、実績が目標値に達している事の評価はするが、町独自の小回りのきく労働相談やもう少し頻度の高い身近な講座の開催なども必要では。（参加率を上げる努力も必要になります）	A	ハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市と連携しながら計画期間中、労働に関する相談会を実施する事ができた。		産業振興課
	ハローワーク藤沢管内の3市1町で実施する湘南就職面接会時において、労働者向けに労働に関する相談会を実施します。※雇用情勢により実施しない場合もあります。		1	1	1	1	1								
29	労働講座の開催		1	1	1	1	1	労政問題懇話会と連携し講座を開催。○マイナンバー制度について 日時：平成27年10月15日（木） 午後6時半から 場所：寒川町民センター視聴覚室 参加者：60人（男性50人、女性10人）	A	マイナンバーの通知に合わせ、労政問題懇話会と連携し講座を実施することができた。	・労働者の福祉の向上につながる講座等の実施を期待したい。  ・最近では毎年のように労働法制が改正されており、企業も労働者もその内容を十分に理解するためにもう少し回数を増やす等の検討が必要と考える。  ・労働相談に関する情報提供や労働相談、労働講座開催など、実績が目標値に達している事の評価はするが、町独自の小回りのきく労働相談やもう少し頻度の高い身近な講座の開催なども必要では。（参加率を上げる努力も必要になります）	A	計画期間中、労政問題懇話会と連携し、毎年労働講座を開催する事ができた。		産業振興課
	労政問題懇話会及び県との共催により、労働環境に関する講座を実施します。		1	1	1	1	1								



施策の内容（3）育児・介護休業などの制度の周知及び普及の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
30	育児休業取得の促進		※3	※5	※1	※1	※1	女性職員の取得に対し男性職員の取得状況は低い。職員間での意識を高めていく必要がある。	A	<p>今年度は取得予定者が取得できたことは評価する。しかし、職場の雰囲気や業務体制により積極的に取得しやすい雰囲気を作り出すことは、取得率アップに向け必須だと思ふ。例えば、町長をはじめ町の幹部職員が「イクボス宣言」などを行い、取得しやすい雰囲気の創出に向け、取組みを進めてほしい。</p> <p>・取得者数とあわせて取得率を掲載をお願いしたい。</p> <p>・男性職員の取得率、目標値1%に対し、実績が5/14人？単位がわかりづらい。(説明はありましたが)</p> <p>・実績が高かったのが良かったが、目標値をもう少し大きくすべきでは？また、「育児休業」の中身の明示を。</p>	A	取得予定者の有無により実績も違ってくるが、取得予定者が取得できてきていることは、目標値を達成できている。	・今後は男性の育児休業取得予定者だけでなく、対象者が全員育児休業が取れるよう、職場の雰囲気の改善や業務体制の構築などに努めてほしい。	総務課	
	町職員が育児休業を取得しやすい環境を整備し、子育ての支援を図ります。	※H23~H24年度指標男性職員の育児休業取得率(%)	0	20	1	1	5		1						
31	勤労者実態調査の実施(再掲)		50					アンケートの回収実績値が目標値を下回るの、様々な機会を利用し実施・協力について情報発信方法の検討が必要。		3年ごとの実施のため平成27年度は未実施。次回は平成29年度実施予定。	<p>・経年的な傾向を読み解くためには、ある程度の回収率が求められている。目標数値とのかなりの乖離があるので、次回調査時には、目標値を下げるのではなく、目標値を達成するための方策を講ずること。また、調査項目について、社会情勢の変化や労働をめぐる法制度などの変化もあることから、通常の項目に加えた設問も必要ではないか。例えば「女性の活躍推進法」に関連した質問項目などの追加。できれば、事前に協議会に設問項目などの情報提供や意見を求めることも必要と考える。</p>	A	実施した2年度は調査票の回収率が目標値を下回ったが、3年毎に調査を実施し、傾向を読み取ることができた。	・過去の実態調査は、回収率が目標と比較して下回っているため、29年度実施予定の調査に向けては、回収率を上げる工夫を図ってほしい。	産業振興課
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、制度の周知や普及の促進を図ります。	調査票の回収率(%)	43				35								

施策の基本的方向 2. 仕事と家庭・地域活動との両立の支援  
 施策の内容(1) 子育て環境の充実

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
32	町立保育園通常保育事業		540	540	540	630	630	認可保育所に通常保育事業の実施を委託し、併せて事業に対する助成を行った。	A	<p>保育の必要性のある児童を認可保育所において保育することで、保護者の就労を支援した。</p> <p>・定員を超えての受け入れの実施を評価します。待機児童数についての情報提供を望む。</p>	A	定員を超えた受け入れを行っており、保護者の就労の継続的な支援を行った。	・子育て支援に関する事業では、ほぼ目標値に近く、または大幅に上回るものもあり、評価します。引き続き、安心して子育てができるよう親世代への支援をお願いしたい。	子ども青少年課	
	※H23~25年度保護者の就労等により家庭等で保育することが困難な児童の保育を、町立保育園で実施します。	利用者数(人)	576	592	607	609	668		2						
33	延長保育の充実		100	100	100	100	100	月曜日～土曜日の18:00～19:00の時間帯において、希望者に対して保育所が実施した延長保育事業に対し、助成を行った。	A	<p>認可保育所に延長保育実施に対して助成を行い、多様な形態で就労する保護者を支援した。</p> <p>・利用率だと状況が見えない。利用人数もあわせて掲載をお願いしたい。</p>	A	認可保育所に延長保育実施に対して助成を行い、多様な形態で就労する保護者を支援した。	・子育て支援に関する事業では、ほぼ目標値に近く、または大幅に上回るものもあり、評価します。引き続き、安心して子育てができるよう親世代への支援をお願いしたい。	子ども青少年課	
	※H23~25年度保護者の就労形態の多様化に対応した、町立保育園での延長保育を実施します。	延長保育希望者の利用率(%)	100	100	100	100	100		2						



施策の内容（１）子育て環境の充実															
事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性						
34	子育て支援相談事業		100	100	100	100	100	相談日：月から金 9:00~16:00 相談件数317件 課題等：育児不安を抱える家庭は、増加の傾向にあり、相談内容も多岐に渡り複雑化・長期化の傾向がある。H28年度より、相談員を1名増員(2名体制)して取り組んでいく。	A	他機関との連携を含む継続フォローや指導等、悩みを抱える子育て家庭への負担軽減を図った。	相談体制の強化は評価できる。	A	子育てに不安を抱える家庭は、年々増加の傾向にあり、その内容は、複雑化・長期化の傾向にある。相談日を増やすことにより、必要なときにすぐに対応できる体制づくりの構築ができた。	子育て支援に関する事業では、ほぼ目標値に近く、または大幅に上回るものもあり、評価します。引き続き、安心して子育てができるよう親世代への支援をお願いしたい。	子ども青少年課
	子育て全般についての相談指導と育児情報の提供を行います。	相談への対応率(%)	100	100	100	100	100		1						
35	児童クラブ運営事業		190	195	200	200	200	開所日294日 自宅で保育を受けることができない児童を受け入れることにより、保護者の就労や女性の社会進出を支援する。各児童クラブの運営負担を軽減するため寒川学童保育会に一括して運営委託を行った。	A	共働きの家庭に残された子どもが安心して放課後を過ごせるよう、今後も同事業を継続していく。	定員増への対応は評価できる。今後も充実をお願いしたい。	A	入所希望者が増加している中、各児童クラブを整備し定員の増を図った。	子育て支援に関する事業では、ほぼ目標値に近く、または大幅に上回るものもあり、評価します。引き続き、安心して子育てができるよう親世代への支援をお願いしたい。	子ども青少年課
	保護者が労働等により放課後昼間家庭にいない児童に、放課後の適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を推進します。	入所児童数(人)	148	160	171	163	186		1						

施策の内容（２）ひとり親家庭への支援															
事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	実績	実績	実績	実績	実績		今後の方向性						
36	ひとり親家庭等医療費助成事業		800	800	800	800	800	ひとり親家庭等医療費助成事業の該当者に対し、周知及び助成を実施した。	A	申請主義であるため未申請者はいるが、全ての対象者に対して周知を実施した。	助成数とあわせて対象者数及び取得率を掲載をお願いしたい。	A	申請主義であるため未申請者はいるが、全ての対象者に対して周知を実施した。	子育て支援に関する事業では、ほぼ目標値に近く、または大幅に上回るものもあり、評価します。引き続き、安心して子育てができるよう親世代への支援をお願いしたい。	子ども青少年課
	ひとり親家庭等の人が病院等を受診したときに支払う医療費のうち、保険診療分の自己負担額を助成します(所得制限有り)。	助成対象者数(人)	856	898	923	813	780		2						

施策の内容（３）男性の家事・育児・介護などへの参加の促進															
事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	実績	実績	実績	実績	実績		今後の方向性						
37	父親・母親教室の開催(再掲)		100	100	100	100	100	4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫(パートナー)向けのイクメンテキストを配布。	A	夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。	徐々に夫の参加が増加しているとのことだが、今後も日曜開催など様々な工夫を図り、夫の教室参加を促してほしい。	A	これまでの受講勧奨に加え、イクメンテキスト配布により、夫の参加率が上昇した。	子育て支援に関する事業では、ほぼ目標値に近く、または大幅に上回るものもあり、評価します。引き続き、安心して子育てができるよう親世代への支援をお願いしたい。	健康・スポーツ課
	初妊婦とそのパートナーを対象に、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座の開催を通じて、男女が協力して家事や育児を行うことについて意識啓発を図ります。	参加者の満足度(%)	95	96	94.9	95.3	97		2						
38	母子訪問指導事業(再掲)		900	900	900	1,000	1,000	低出生体重児など継続的な訪問が必要なケースの増加により、訪問件数が増えている。	A	訪問件数の増加と、適切な時期に実施ができていて目標を達成できた。	低体重児が増えている理由として「高齢出産」を上げたが、職場環境(長時間労働、長距離通勤、母性保護行使等)、食生活、日常の健康管理、喫煙などの問題も考えられる。適切な対応をすることは評価するが、低体重児等の減少するための健康指導等も重要な課題である。	A	地域の中で安心して子育てができるよう、個別訪問を実施し、不安を軽減することができた。	継続的な訪問が必要な方への訪問フォローを望みます。 子育て支援に関する事業では、ほぼ目標値に近く、または大幅に上回るものもあり、評価します。引き続き、安心して子育てができるよう親世代への支援をお願いしたい。	健康・スポーツ課
	乳幼児を育てている家庭を訪問し、育児状況の確認や子どもと養育者の心身の健康づくりへの助言等と併せて、男性の育児参加への意識啓発を行います。	母子訪問合計件数(件)	954	1,041	1,172	1,493	1,704		1						



施策の内容（3）男性の家事・育児・介護などへの参加の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
39	母子健康相談事業(7か月児相談2歳児歯科相談)(再掲)	来所率(%)	65	70	75	80	85	それぞれの時期の課題を解決できるよう、7か月相談と2歳児歯科相談を別日程で実施。7か月相談 月1回 来所率91.4% 2歳児歯科健診 月1回 う蝕対策予防事業として、2歳児の歯科保健の指導を充実させ、来所率が72.2%に上昇した。	A	7か月児、2歳児の相談を別日に実施し、きめ細やかな対応を行うことができ、来所率も上昇した。	・来所率の向上への努力を評価する。来所できない理由等がわかれば、100%に向けた改善が図れると思われる。	A	子どもの発育・発達過程にあわせ、適切な支援ができるよう、柔軟に相談の体制を変更した。来所率も上昇し、来所者の不安を軽減できた。	・1回あたりの参加人数については改善が見られたことだが、まだまだ男性の参加が少ないことから、開催日や開催時間などの工夫や効果的な広報を行うなど、男性の参加に向けた取組みを進めてほしい。	健康・スポーツ課
	来所による相談事業の開催を通じて、乳幼児を育てる家庭の、子どもと養育者の心とからだの健康づくりを支援し、男性の育児参加への意識啓発を行います。		70	70	68	71.7	81.8		1						
40	家族介護教室・認知症高齢者介護教室の開催	講座参加者合計数(人)	30	30	30	30	30	○家族介護教室 開催日(回数): H28.1/26、2/2、2/9(すべて火曜日)(3回) 参加人数:20人(男性1人、女性19人)  ○認知症高齢者介護教室 開催日(回数): H28.2/16、2/23、3/1(すべて火曜日)(3回) 参加人数:10人(男性2人、女性8人)  家族介護教室のプログラムを見直して開催。	A	家族介護教室のプログラム内容を見直して実施したところ、1回あたりの参加人数については改善した。今後も、男女問わず参加出来る介護教室を開催していく。	・ニーズの高い講座と思われる。30人の数値目標が低いのではないかと思います。今後講座の回数、人数、内容等の改善を図るようお願いしたい。	A	在宅で介護を行っている家族や、介護に興味がある地域住民に、介護技術や対応方法を習得してもらうための講習会を行ってきた。男女問わず参加出来る講習の機会を提供してきている。	高齢介護課	
	介護技術・対応方法を習得するための講習会の開催を通じて、男女がともに介護を担うことの意識啓発を図ります。		27	40	30	34	30		1						
41	男女共同参画に関する講座の開催	講座の参加人数(人)	20	20	80	80	80	男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18人(男性4人、女性14人) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。 ②2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89人(男性17人、女性72人) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 内容:講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。	A	①少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。講座終了後のアンケートの感想では、「新しい自分が発見できて良かった」など満足度の高い講座となった。 ②死は自分の遠い将来だけでなく自分や身近な家族などに関係することであり、「死生観を持つ」という切り口でのワーク・ライフ・バランス、自分らしい生き方を考える機会を提供できた。	・地道な参加型の講座の開催は評価する。継続的な開催と内容の充実のために行政指導の企画でなく、企画についての町民の意見を聞くとか、協議会の意見を聞き、充実することが必要である。アンケートの結果を分析し充実を図ることも必要である。	A	ワーク・ライフ・バランスや防災、意識啓発などのテーマで開催。男女双方とも考えるきっかけづくりができた。	協働文化推進課	
	生活に密着した視点から男女共同参画に関する講座を開催し、男性も家事や育児などに参加しやすくなるよう、きっかけ作りや意識啓発を図ります。		73	313	162	169	107		1						
42	勤労者実態調査の実施(再掲)	調査票の回収率(%)	50				55	アンケートの回収実績値が目標値を下回るので、様々な機会を利用し実施・協力について情報発信方法の検討が必要。	2	3年ごとの実施のため平成27年度は未実施。次回は平成29年度実施予定。	・経年的な傾向を読み解くためには、ある程度の回収率が求められている。目標数値とのかかなりの乖離があるので、次回調査時には、目標値を下げるのではなく、目標値を達成するための方策を講ずること。また、調査項目について、社会情勢の変化や労働をめぐる法制度などの変化もあることから、通常の項目に加えた設問も必要ではないか。例えば「女性の活躍推進法」に関連した質問項目などの追加。できれば、事前に協議会に設問項目などの情報提供や意見を求めることも必要と考える。	A	実施した2年度は調査票の回収率が目標値を下回ったが、3年毎に調査を実施し、傾向を読み取ることができた。	・過去の実態調査は、回収値が目標と比較して下回っているため、29年度実施予定の調査に向けては、回収率を上げる工夫を図ってほしい。	産業振興課
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、従業員が制度を取得しやすくなるよう、制度の周知や普及の促進を図ります。		43				35								
43	公民館講座の開催(再掲)	講座の参加者数(人)	7,000	7,050	7,100	7,150	7,200	公民館まつりが天候に恵まれ来館者数4,600人(概算)と好調だった。13%増の8,664人の参加だった。公民館まつりは老若男女問わず参加者、来館者がいるので今後も続けるが、集計方法を確立していきたい。まつりの参加人数に左右される傾向がある。	A	講座4,450人 読み聞かせ386人 まつりと読み聞かせを除く参加人数4,450人。概ね達成できたといえる。	・参加目標の設定数値の根拠が不明である。講座の内容、参加者の年齢・男女別などがわからないので評価をすることができない。社会教育の場としての公民館活動のなかに男女共同参画視点をいれた講座の開催やジェンダーの視点をいれた読み聞かせなどがされたかどうか評価の基準として考えるための情報がない。評価するための情報提供を望む。	A	目標値を達成するよう講座を開催し、男女年齢問わず興味を持つような内容を企画立案した。参加しやすい開催日時等の設定に努めた。生涯学習推進員や利用者の会の協力があった。	町民センター	
	公民館講座を通じて、男性の家事・育児・介護への参加に対する意識付けを促進します。		6,982	6,562	7,488	7,339	8,664		2						



施策の内容（４）地域活動への参加の促進

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間の評価)	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
44	ファミリーサポートセンター事業		1,900	2,100	1,000	1,000	1,000	お願い会員680人、まかせて会員186人、どちらも会員137人 課題等: 依頼会員に比べ提供会員が少ない。事業開始から10年以上が経過し、おねがい会員からどっちもまかせて会員に登録していただける会員も多くなっていることから、更に事業の必要性を啓発していく必要がある。	A	子育て家庭に対する経済的負担の軽減と保育ニーズの分散化を狙いとした町一部負担を導入したところ、活動年数は前年比190%となった。	・さらなる援助等の充実を望む。	A	子育て家庭は、若年層が多く経済的にも不安を抱えた家庭も多い。H27年度より導入した町一部負担制度は、利用件数から見てもこの事業を必要とする家庭にとっては効果的だったと考えられる。		子ども青少年課
	育児の援助を受けたい人を行う人が会員となって一時預かり等の事業を行うことにより、育児世代の地域活動への参加を支援します。	活動件数(件)	893	936	1,145	997	1,907		2						
45	生涯学習に関する情報提供(再掲)		6	6	6	6	6	男女を問わず、生涯学習に関する情報を提供した。 1.さむかわ町民大学 2.出前講座 3.4.生涯学習人材登録制度「ステップアップ」メニュー紹介用/登録者募集用 5.さむかわ生涯学習総合案内 6.広報さむかわ1月号特集ページに掲載 ○町ホームページの関連ページ訪問数は518件。	A	「さむかわ生涯学習総合案内」を町内の各施に配下し、広く生涯学習に関する情報提供を行った。紙媒体は文字数等情報量に制限があるため、ホームページ、Twitter、メール配信サービスを活用し情報量の充実をしていく。	・広報については継続した実施が必要である。	A	男女年齢を問わず情報提供を行ったことで、自己研鑽のための学習活動の支援につながった。		協働文化推進課
	さむかわ町民大学、出前講座、生涯学習人材登録等の学習情報を提供し、地域活動への参加を支援します。	広報紙、ホームページ、パンフレットでの啓発回数(回)	6	6	6	6	6		1						
推進協議会評価 【基本目標Ⅲ仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進のための環境づくり】			【平成27年度評価】 ○勤労者実態調査の内容を精査し、企業等における労働者の実態を把握したうえで企業に対しワーク・ライフ・バランス推進のため環境づくりに向けた理解を求め、町として支援や施策も考慮した上で働きかけをする必要がある。 ○育児や介護等に関する講座は概ね達成しているが、内容については工夫や見直しを行うとともに、開催内容について、広報等で広く周知してほしい。									【5年間の評価】 ○ワーク・ライフ・バランスの考え方を周知し、仕事と生活の調和が大切であることを企業や労働者に根気よく訴えていく必要がある。 ○企業のワーク・ライフ・バランスの取り組みについては規模により取り組むことが異なるため、町として支援や施策を考慮した上で、実効性、現実性を検討してほしい。 ○育児や介護に関する取組については、より男女とも多くの人が参加できるよう内容等を工夫し、見直し広く周知してほしい。			



〈基本目標Ⅳ 男女共同参画社会実現のための意識づくり〉

施策の基本的方向 1. 職場や地域における意識づくりの推進  
 施策の内容(1) 職場における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
46	男女共同参画に関する講座の開催(再掲)		20	20	80	80	80	男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18名(男性4名、女性14名) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。 ②市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89名(男性17名、女性72名) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 内容:講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。	B	①は地域の課題を解決する人材の育成②はワーク・ライフ・バランスの内容が盛り込まれていたが、事業所(経営者・勤労者)向けの職場の意識啓発に絞って開催したものはなかった。女性の活躍できる社会を目指し男女が平等で働きやすい環境づくりには意識啓発を継続して取り組む必要がある。経営者や勤労者を対象にした講座を実施できるよう県や2市と検討していく。	・事業の目的、内容にそった講座を開設してほしい。また、周りの行政組織との共同開催もしいが、寒川町として独自性を持った講座の開催も検討してほしい。 ・地道な参加型の講座の開催は評価する。継続的な開催と内容の充実のために行政指導の企画でなく、企画についての町民の意見を聞くとか、協議会の意見を聞き、充実することが必要である。アンケートの結果を分析し充実を図ることも必要である。	第3次プラン(5年間)の評価	事業所向けの男女共同参画に関する講座を、開催することができなかったため。	・事業所向けの男女共同参画に関する講座を開催できなかったとのことだが、今後は「かながわ女性の活躍応援団」啓発講座の利用や商工会議所等での会議において出前講座を行うなど、事業所を対象とした講座を是非実施してほしい。	
	事業所向けの男女共同参画に関する講座を開催し、職場における男女共同参画への意識啓発を図ります。	講座の参加人数(人)	0	0	0(162)	50	107	対象を事業所向けに絞った講座ではなかったため、職場における意識啓発に直接つながるものではなかった。育児や介護に男性の参加を促すには、事業所の制度整備や周囲の理解が必要であるので、経営者や労働者も参加できる講座を開催する必要がある。	1						協働文化推進課

施策の内容(2) 地域における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課	
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値									実績
47	男女共同参画に関する講座の開催(再掲)		20	20	80	80	80	男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしリーダーシップ発見講座」 日時:平成28年1月31日(土) 参加者:18名(男性4名、女性14名) 講師:古瀬正也(古瀬ワークショップデザイン事務所代表) 内容:男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。 ②市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時:平成27年11月15日(日) 参加者:89名(男性17名、女性72名) 講師:金子 稚子(ライフ・ターミナル・ネットワーク代表) 内容:講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。	A	①少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。 ②死は自分の遠い将来だけでなく自分や身近な家族などに関係することであり、「死生観を持つ」という切り口でのワーク・ライフ・バランス、自分らしい生き方を考える機会を提供できた。	・地道な参加型の講座の開催は評価する。継続的な開催と内容の充実のために行政指導の企画でなく、企画についての町民の意見を聞くとか、協議会の意見を聞き、充実することが必要である。アンケートの結果を分析し充実を図ることも必要である。	第3次プラン(5年間)の評価	ワーク・ライフ・バランスや、意識啓発の内容が盛り込まれており、男女双方とも考えるきっかけづくりができた。			
	生活に密着した視点から男女共同参画に関する講座を開催し、地域における男女共同参画への意識啓発を図ります。	講座の参加人数(人)	73	313	162	169	107		1						協働文化推進課	



施策の内容（2）地域における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
			実績	実績	実績	実績	実績								
48	生涯学習講座などの開催		4	4	4	4	4	<p>各種講座を実施。男女を問わず生涯学習の機会を提供した。</p> <p>&lt;教育総務課&gt; 1~3. PTA指導者研修会 5/22(金)(校外研修会)27人(すべて女性) 5/26(火)(広報研修会)23人(すべて女性) 5/28(木)(役員研修会) 29人(男性4人、女性25人)</p> <p>4~5. 家庭教育支援事業 「ママパパのための絵本講座」 ・11/7(土)「わらべうたベビーマッサージと絵本でふれあい遊び」22家族(54人) (大人:32人(男性9人、女性23人)/子ども:24人(男性9人、女性15人)) ・11/21「絵本講座」 22人(男性15人、女性7人)</p> <p>6. 人権教育事業「傾聴講座」 7/11・18・25・8/1・8(すべて土曜日)のべ45人(男性5人、女性7人)</p> <p>&lt;協働文化推進課&gt; 7. 生涯学習支援者研修 「カリスマプランナーに学ぶ！行列のできる講座とチラシの作り方」3/24(木) 35人(男性16人、女性22人)</p> <p>8~11.ステップアップPR講座 「レカンフラワー教室」4/24(金)5人(すべて女性) 「似合う色で輝くパーソナルカラー教室」 9/3、9/17、10/1、10/15(すべて木曜日)のべ45人(すべて女性) 「年末年始フラワーアレンジ作り教室」 12/26(土)16人(すべて女性) 「楽しいアロマセラピー教室」3/5(木)5人(すべて女性)</p> <p>12.13文教大学出張講座「近代日本を学ぶ」 2/13(木)11人(男性9人、女性2人) 2/20(土)8人(すべて男性)</p>	A	<p>・開催日の工夫により、男性の参加が増加したことは評価できる。今後も、引き続き、男性も参加しやすい事業の実施に努めてほしい。</p> <p>・生涯学習からの視点からの講座の設定は評価する。しかし、男女共同参画の視点から講座等のテーマを設定する企画を望む。</p> <p>・「意識づくり」の事業としては事業番号47のような大きな講演会が主となり、実績も高いので評価されるが、48のような小・中規模の講座が連続して行われる事は、参加者の意識向上に、より効果的であると思われる。</p>	A	<p>&lt;教育総務課&gt; 5年間を通じて、目標値を達成する数の各種講座を実施し、男女問わず生涯学習の機会を提供した。また、男女問わず参加しやすい開催日時等の設定に努めた。</p> <p>&lt;協働文化推進課&gt; さまざまなテーマで講座を開催し、機会を提供することで生涯学習をはじめるきっかけづくりができた。</p>	<p>・さまざまな講座を開催した事は評価できるが参加対象に片寄りがあるのでは。講座の内容の工夫を望む。</p>	協働文化推進課 教育総務課	
	PTA指導者研修会、家庭教育講演会、人権教育講演会等の講座、講演会を開催して、男女共同参画の意識啓発など生涯学習の機会を提供します。	講座開催回数(回)	18	18	18	13	13								2

施策の基本的方向 2. 家庭や学校等における意識づくりの推進  
施策の内容（1）家庭における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
			実績	実績	実績	実績	実績								
49	父親・母親教室の開催(再掲)		100	100	100	100	100	<p>4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦249人 夫81人参加あり。毎コースの4日目を日曜日実施しているため、夫の参加率が上がってきている。母子健康手帳交付時に夫(パートナー)向けのイクメンテキストを配布。</p>	A	<p>夫の参加が日曜日だけでなく、平日に参加される方もおり、夫の参加徐々に増加してきている。</p> <p>・徐々に夫の参加が増加しているとのことだが、今後も日曜開催など様々な工夫を図り、夫の教室参加を促してほしい。</p> <p>・満足度が多いことは重要だと思いますが、満足度を数値目標にするのは適切でないと思われます。数値目標にするのであれば、参加者数を目標値に置くべきである。対象妊婦の何割が参加したかどうかにより、啓発度が浸透しているかが測れる。</p>	A	<p>これまでの受講勧奨に加え、イクメンテキスト配布により、夫の参加率が上昇した。</p>	健康・スポーツ課		
	初妊婦とそのパートナーを対象にした、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座の開催を通じて、男女がお互いを理解し尊重することについて意識啓発を図ります。	参加者の満足度(%)	95	96	94.9	95.3	97								
50	母子訪問指導事業(再掲)		900	900	900	1,000	1,000	<p>低出生体重児など継続的な訪問が必要なケースの増加により、訪問件数が増えている。</p>	A	<p>訪問件数の増加と、適切な時期に実施ができていて目標を達成できた。</p> <p>・低体重児が増えている理由として「高齢出産」を上げたが、職場環境(長時間労働、長距離通勤、母性保護行使等)、食生活、日常の健康管理、喫煙などの問題も考えられる。適切な対応をすることは評価するが、低体重児等の減少するための健康指導等も重要な課題である。</p>	A	<p>地域の中で安心して子育てができるよう、個別訪問を実施し、不安を軽減することができた。</p>	健康・スポーツ課		
	乳幼児を育てている家庭を訪問し、育児状況の確認や子どもと養育者の心身の健康づくりへの助言等と併せて、男性の育児参加への意識啓発を行います。	母子訪問合計件数(件)	954	1,041	1,172	1,493	1,704								



施策の内容（１）家庭における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	実績	実績	実績	実績	実績								
51	母子健康相談事業（7か月児相談2歳児歯科相談）（再掲）	来所率（%）	65	70	75	80	85	それぞれの時期の課題を解決できるよう、7か月相談と2歳児歯科相談を別日程で実施。7か月相談 月1回 来所率91.4% 2歳児歯科健診 月1回 う蝕対策予防事業として、2歳児の歯科保健の指導を充実させ、来所率が72.2%に上昇した。	A	7か月児、2歳児の相談を別日に実施し、きめ細やかな対応を行うことができ、来所率も上昇した。	・来所率の向上への努力を評価する。来所できない理由等がわかれば、100%に向けた改善が図れると思われる。	A	子どもの発育・発達過程にあわせ、適切な支援ができるよう、柔軟に相談の体制を変更した。来所率も上昇し、来所者の不安を軽減できた。		健康・スポーツ課
	来所による相談事業の開催を通じて、乳幼児を育てる家庭の、子どもと養育者の心とからだの健康づくりを支援し、男性の育児参加への意識啓発を行います。		70	70	68	71.7	81.8		1						
52	男女共同参画に関する講座の開催（再掲）	講座の参加人数（人）	20	20	80	80	80	男女共同参画推進講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ①男女共同参画推進市町村連携講座「自分らしいリーダーシップ発見講座」 日時：平成28年1月31日（土） 参加者：18人（男性4人、女性14人） 講師：古瀬正也（古瀬ワークショップデザイン事務所代表） 内容：男女共同参画の視点をもって、地域の課題を解決する人材の育成を目的として実施。少人数グループで、リーダーシップの体験型学習として、実習、振り返り、分かち合い、全体共有を行い、講座の冒頭に「数字で見る男女共同参画」、最後に「リーダーとリーダーシップ」のミニ講義を行った。 ②市1町（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町）広域連携事業男女共同参画特別講演会「最後まで自分らしく生きるために」 日時：平成27年11月15日（日） 参加者：89名（男性17名、女性72名） 講師：金子 稚子（ライフ・ターミナル・ネットワーク代表） 内容：講師は流通ジャーナリスト金子哲雄氏の妻であり、夫の闘病と死別を深く体感したことをもとに終末期を迎えるための情報提供やサポート活動を行っている。誰もが必ず迎える死について死生観からとらえた生き方についてご講演いただいた。	A	①少人数編成で開催したため、全員が発言でき、年代や性別などの客観的視点も交えたグループワークの利点が発揮できた。講座終了後のアンケートの感想では、「新しい自分が発見できて良かった」など満足度の高い講座となった。  ②死は自分の遠い将来だけでなく自分や身近な家族などに関係することであり、「死生観を持つ」という切り口でのワーク・ライフ・バランス、自分らしい生き方を考える機会を提供できた。	・地道な参加型の講座の開催は評価する。継続的な開催と内容の充実のために行政指導の企画でなく、企画についての町民の意見を聞くとか、協議会の意見を聞き、充実することが必要である。アンケートの結果を分析し充実を図ることも必要である。	A	ワーク・ライフ・バランスや、意識啓発の内容が盛り込まれており、男女双方とも考えるきっかけづくりができた。		協働文化推進課
	生活に密着した視点から男女共同参画に関する講座を開催し、家庭における男女共同参画への意識啓発を図ります。		73	313	162	169	107		1						
53	生涯学習講座などの開催（再掲）	講座開催回数	4	4	4	4	4	各種講座を実施。男女を問わず生涯学習の機会を提供した。 ＜教育総務課＞ 1～3. PTA指導者研修会 5/22(金)（校外研修会）27人（すべて女性） 5/26(火)（広報研修会）23人（すべて女性） 5/28(木)（役員研修会）29人（男性4人、女性25人） 4～5. 家庭教育支援事業 「ママパパのための絵本講座」 ・11/7「わらべうたベビーマッサージと絵本でふれあい遊び」 22家族（54人）（大人：32人（男性9人、女性23人）子ども：24人（男性9人、女性15人） ・11/21「絵本講座」 22人（男性15人・女性7人） 6. 人権教育事業「傾聴講座」 7/11・18・25・8/1・8（すべて土曜日）のべ45人（男性5人、女性40人）  ＜協働文化推進課＞ 7. 生涯学習支援者研修 「カリスプランナーに学ぶ！行列のできる講座とチラシの作り方」3/24(木)35人（男性16人、女性19人） 8～11.ステップアップPR講座 「レカンフラワー教室」4/24(金)5人（すべて女性） 「似合う色で輝くパーソナルカラー教室」 9/3、9/17、10/1、10/15（すべて木曜日）のべ45人（すべて女性） 「年末年始フラワーアレンジ作り教室」 12/26(土)16人（すべて女性） 「楽しいアロマセラピー教室」 3/5(木)5人（すべて女性） 12.13文教大学出張講座「近代日本を学ぶ」 2/13(土)11人（男性9人、女性2人） 2/20(土)8人（すべて男性）	A	＜教育総務課＞ 目標値を達成した。 特に、家庭教育支援事業については、母親だけでなく、父親の参加も狙い、土曜日開催としたため、夫婦で参加した家族もあり、男性の育児参加についても啓発することができた。  ＜協働文化推進課＞ 参加者を考慮し、平日や土曜日に開催した。ステップアップPR講座は登録者から自主企画として実施している。参加人数は講座によって差があり、定員を越えて応募のあった講座もあった。学習効果を指導者として活かすこと、町民への学習機会を提供できる両面での生涯学習活動の充実が図れるため、企画をする上での指導助言等の支援を充実させていく。	・開催日の工夫により、男性の参加が増加したことは評価できる。今後も、引き続き、男性も参加しやすい事業の実施に努めてほしい。	A	＜教育総務課＞ 5年間を通じて、目標値を達成する数の各種講座を実施し、男女問わず生涯学習の機会を提供した。また、男女問わず参加しやすい開催日時等の設定に努めた。  ＜協働文化推進課＞ さまざまなテーマで講座を開催し、機会を提供することで生涯学習をはじめるきっかけづくりができた。		健康・スポーツ課
	PTA指導者研修会、家庭教育講演会、人権教育講演会等の講座、講演会を開催して、男女共同参画の意識啓発など生涯学習の機会を提供します。		18	18	18	13	13		2						



施策の内容（１）家庭における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
54	公民館講座の開催(再掲)		7,000	7,050	7,100	7,150	7,200	公民館まつりが天候に恵まれ来館者数4600人(概算)と好調だった。13%増の8664人の参加だった。公民館まつりは老若男女問わず参加者、来館者がいるので今後も続けるが、集計方法を確立していきたい。まつりの参加人数に左右される傾向がある。	A	講座4450人 読み聞かせ386人 まつりと読み聞かせを除く参加人数4450人。概ね達成できたといえる。		A	目標値を達成するよう講座を開催し、男女年齢問わず興味を持つような内容を企画立案した。参加しやすい開催日時等の設定に努めた。生涯学習推進員や利用者の会の協力があつた。		健康・スポーツ課
	公民館講座を通じて、男女共同参画の意識づくりを図ります。		6,982	6,562	7,488	7,339	8,664		2						

施策の内容（２）学校等における意識啓発

事業番号	事業名		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	現状と課題 (H27年度)	評価 今後の 方向性	評価の理由 (H27年度)	推進協議会の事業別意見欄 (平成27年度)	第3次プラン(5年間)の評価	第3次プラン(H23~H27までの5年間)評価の理由	推進協議会の事業別意見欄 (5年間)	担当課
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値								
55	教職員の資質向上事業		240	240	240	240	240	教職員研修会(6/1、7/22、8/5、8/6全4回 283名)および教育講演会(2/5 52名)もに於いて、人権感覚を磨き、人権や男女共同参画に配慮した授業づくりや教育課題の解決力の向上などを行い、意識を高めた。	A	本年度も、大変充実した研修会や講演会を開催することができた。「人権教育やインクルーシブ教育」そして男女共協同参画の観点から今後も継続して研修を行っていく必要がある。		A	毎年有意義な研修会、講演会を重ねてきたことで、人権教育や男女協同参画に対する意識は着実に高まっており、特に学校では当然の社会の在り方として意識されている。		学校教育課
	教職員向け講演会や研修会等を開催し、児童・生徒への人権教育の充実を図ります。		246	382	387	296	355		2						
56	中学生人権作文コンテストの実施		200	210	220	230	240	教頭会で協力を投げかけ、応募者数が飛躍的に増えた。人権擁護委員会の事業であるが、若年期から人権意識を身に付けることは重要であり、事務局として協力しながら、引き続き多数の参加が図られるような方針を検討していく。	A	参加者の募集は町立中学校等に対して行っているが、夏休み期間に多くの課題の中から選択することになり、生徒の希望や学校の取り組み方に依存せざるを得ないため、応募者数が少ない状況であったが、教頭会で協力を投げかけ、応募者数が増えたため。		B	参加者の募集は町立中学校等に対して行っているが、夏休み期間に多くの課題の中から選択することになり、生徒の希望や学校の取り組み方に依存せざるを得ないため、安定した応募者数確保に向け更なる検討が必要のため。		町民窓口課
	関係機関と連携して人権作文コンテストを実施し、人権に対する生徒の意識啓発を図ります。		203	103	94	58	247		1						
57	読み聞かせの実施		720	720	720	720	720	<公民館> 北部・南部公民館合わせた集計。386人参加人数は横ばいだが、多種多様な読み手のボランティアの養成が必要である。  <寒川総合図書館> 毎週土曜日におはなし会、冬にスペシャルおはなし会を開催。 開催回数: 50回 参加者数: 912人 毎月第4水曜日に3歳児以下を対象とするおひざにだっこのおはなし会を開催 開催回数: 12回 参加者数: 405人 子どもをつれた父親の参加も見られるが、まだ少なく、母親と子どもの参加が多い。父親も参加しやすい雰囲気作りが必要と考える。	A	<公民館> 少子化が進んでいる割には前年並みを維持しているため概ね達成できたといえる。  <寒川総合図書館> 定期的に開催することで、おはなし会は利用者間に浸透している。毎年、対象者の多くが変わる中で目標値を上まわることができている。 幼児期から図書に親しむ機会をとおして、父親や母親などが子どもと一緒に参加できる場の提供が行えている。		A	<公民館> 目標値を達成するよう講座を開催し、男女年齢問わず興味を持つような内容を企画立案した。参加しやすい開催日時等の設定に努めた。  生涯学習推進員や利用者の会の協力があつた。  <寒川総合図書館>おはなし会は、継続的に開催を行っていて、町民に定着しており、毎年、対象者が変わっていくが、毎回、多くの参加を得ている。乳幼児期から親子や家族で本に親しむ機会の提供が行えている。母親と子どもだけではなく、父親と子どもの参加も見られ、子どもたちも皆一緒におはなしを聞いている。 子どもたちは様々なストーリーの読み聞かせをとおして、様々な世界や考え方に触れ、自分の世界を広げている。その中で、思いやりや仲良くする心などが育てられている。		町民センター寒川総合図書館
	公民館や図書館を活用した読み聞かせを通じて、思いやりや仲良くする心などの人権・男女平等意識を幼児期から育みます。		1,490	1,446	1,251	1,593	1,703		2						

推進協議会評価まとめ 【基本目標Ⅳ】 男女共同参画社会実現のための意識づくり	【平成27年度評価】 ○男女共同参画社会実現のためには、職場や地域、家庭や学校における意識づくりを引き続き進める必要がある。意識づくりの講座については各関係機関と連携し、町民自らの意見を聞く参加型の講座など、対象ごとや内容ごとに効果的な事業の実施を図る必要がある。	【5年間(H23年度~H27年度)の評価】 ○男女協働参画社会実現のための意識づくりについては、職場や地域、家庭や学校、各年代層などそれぞれの場での理解と取り組みが必要であるため、情報提供や講座などあらゆる手段により、更に広げていく必要がある。
--	---	---



さわかわ男女共同参画プラン推進協議会委員評価（個別意見）

<p>【基本目標Ⅰ】 あらゆる分野での男女共同参画の推進</p>	<p>平成27年度評価</p> <p>○「女性リーダー育成のための講座」では、少人数ではあるものの、グループワークを取り入れ内容を充実させるなど、男女共同参画の理解に向けた講座の開催について工夫を図ったことは評価できる。</p> <p>○日本の社会はまだ女性が社会参加する事が限られています。少しでも女性が管理職等についたり継続していくにはやはり保育園等の充実が大切と思う。事業所等への働きかけ等。</p> <p>○女性リーダー育成講座や、各種生涯学習講座等の実績は概ね達成していることから、そうした講座への参加者から審議会への委員が出てくるような流れを作るのは難しいでしょうか？</p>	<p>5年間（H23年度～H27年度）の評価</p> <p>○様々な場面で女性の活躍が見られるようになってきたが、政策・方針決定の過程への女性の参画は、まだまだ十分とはいえない状況である。これまで施策として実施されてきた事業については、十分に検証していただき、更なる取組みの推進を図ってほしい。</p> <p>○様々な面で男女共同参画の推進に向けて取り組んだ結果、町民をはじめ、社会全般で意識改革が進んできたように思う。次の5年に向けては、一度原点に戻って何を今後の取り組みの方向・方針にするのかをしっかりと検討する必要がある。すぐには効果が表れにくい課題だが、地道な取り組みを継続することが大切である。</p> <p>○人材育成の充実や社会参画に関する情報の提供により、意識も高まりつつあるようなので、男女ともに、より多くの分野へ参画していくような、効果的な企画などを今後も期待します。 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって、社会のあらゆる分野に於ける活動に、参画する機会が確保され、依って、男女が均等に、政治的、経済的、社会的、文化的利益を享受する。多くは、女性問題と思われている。が、これは、男性の問題である。日本社会の未来の問題。しかし、男性だけが社会を支える仕組みが先進国でも未だ根強く、残っている。ここ数年歴代総理が表明している事ですが、国家としても、何ら、変哲の無いのが不思議。この法案は、掲げているだけで、国会でも誰一人として、真剣に取り組む者はいない。地方から立ち上がるのも、良いことであるかもしれないが、旗を振り始めてから、なにか変わりましたか？変わっていないでしょう。世の現状は、あまりにも、極自然に、男女が暮らしている。あえて、取り立てる事も無いような気がする。今は、DVも逆DVに移項してきていると聞く昨今です。やはり、ポイントは、ワーク・ライフ・バランスが世の中全てに、浸透していければ自然と男女共同参画が生きてくるのではないのでしょうか！</p> <p>平成27年度及び平成23年度から平成27年度までの5年間の評価</p> <p>○事業として取り組まれている活動が、女性の参画の促進につながっていくよう、実施内容や方法をさらに検討し、充実を図ってほしい。</p>
<p>【基本目標Ⅱ】 男女の人権の尊重</p>	<p>平成27年度評価</p> <p>○何時も思うのですが、お互いを尊重することが大事。その様な意識啓発があると良い。</p> <p>○顕在化しにくい問題なので、引き続き丁寧な予防策、相談窓口への対応をお願いしたい。</p>	<p>5年間（H23年度～H27年度）の評価</p> <p>○男女の固定的な役割分担意識の改善が進まなかったり、DVやセクハラなど女性に対する人権問題が減少しなかったりすることは、家事・育児や介護など男女が共同して行う社会環境の未整備が一因上げられる。また、相談受け付けを町民窓口課に1本化したのが、庁舎における窓口の場所や相談を受ける人とその対応の仕方などハード面、ソフト面とも課題はなかったかは報告からは読み取れない。相談窓口として役割を十分果たしているのか、相談者の目線に立ち検証してみることも必要と考える。</p> <p>○町民、事業所に対する取り組み(事業)は、町職員の意識も高く積極的に行っていることは評価できる。しかし、町職員が男女の人権課題も含め、問題意識を持ち町民目線に立った取組、職場内での進捗状況などが見えてこない。茅ヶ崎市や県主催の研修に参加することも効果があると思うが、庁内単独の研修会や意識調査など、まずは職員の意識の向上を図ることも重要であろう。</p> <p>○各種機関との連携を今後も継続して、男女に限らず基本的人権の擁護を意識して、より細やかな配慮支援、情報提供を要望する。</p> <p>○この世に二種類の異なる人種(性別男女)+(ハーフの方)が存在しています。結婚もしてなくても、問題にならない。少子高齢化の現在、この現状を、若い男女がお互いに感じ捕らえなくてはいけない、国を背負う将来の子どもたちを育てる責任を、肌でひしひしと感じて欲しい。子育てもしないで、将来、若者たちは、働く人達のいないホームに、老後、入るつもりでいるのでしょうか？真剣に考える時が来ています。少子高齢化の責任を、男性としての役目を、女性としての役目を、果たしていない結果です。この役目が両者とも生かされて、果たされて、こそ(結婚)の結果、夫婦がともに相互信頼を持って、お互いを認め合い、尊敬しあい、共同、協同生活の中で子育てをする。男女の尊厳を何よりも大切にしたい。長いスパンの中で、幼児の頃より、人としてのなすべき原点の教育を、国の政策にしなくては成らない。個人主義ばかり通しては、済まされない、今日、明日の問題が、のしかかる今、直ぐに実現しないと聞かれています。</p> <p>平成27年度及び平成23年度から平成27年度までの5年間の評価</p> <p>○施策の基本的方向3「生涯を通じた心身の健康づくりへの支援」については、地域に根ざしたきめ細かな事業を実施しており、目標達成に向け、概ね順調に進められていると思う。</p> <p>○「男女の心とからだの健康づくりへの支援」に関する各事業については、目標どおりに進められている。ただし、スポーツ事業が男女共同参画の推進にどのように寄与しているかが分かりにくい部分があるので、目的や実施内容、方法について工夫し、さらに充実してほしい。</p>
<p>【基本目標Ⅲ】 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）推進のための環境づくり</p>	<p>平成27年度評価</p> <p>○ほとんどの事業で27年度の目標値を達成しており、評価できる。しかしながら、男性の育児休業取得については、目標は達成しているものの、職場の雰囲気や業務体制により積極的に取得できる状況に至っていないなど課題もあることから、男性の育児休業取得に向け、今後取組みを強化してほしい。</p>	<p>5年間（H23年度～H27年度）の評価</p> <p>○町の調査から、ワーク・ライフ・バランスの周知状況は、「言葉も内容も知っている」は男性で2割台半ば、女性で1割半ばとなっている。「言葉も内容も知らない」は男性約4割、女性5割台半ばとなっている。まずは、ワーク・ライフ・バランスの考え方、意味等を周知する必要がある。</p> <p>○事業所の改善に視点を当てた取り組みになっているが、事業所の規模によって改善をしたくてもできない状況があると思う。事業所に働きかけることは必要であるが、町としてどのような支援ができるかを考え、施策として取り組む方が実効性、現実性があると思う。</p> <p>○調査の1つとして、家事、育児を男性と女性がどの程度の割合で関わっているのか、女性の負担が大きい場合は、その改善をどのように図るかなど、身近な取り組みについて推進することが改善につながるのではないかと。</p> <p>○寒川町の個人企業、中小企業、大企業の経営者の考え方、意識の向上が無いと、無理です。役場の係が個別訪問して、説得をして、少しずつ意識を高めないと、出来ませんよ。まして、最近では、父親の参観日が年々増えて来ていますから。母親ばかりではありません。それなりの準備が必要です。認識を高めれば如何ということはないですが、これらが、当たり前の考えに到達しないと全く無理と思います。寒川町は実行してくれる企業に対し、よほど飛び切りの人参をぶら下げないと無理かな？とおもいます。ちなみに弊社は、この件に関しては、社員から申し出で有ったのではなく、仕事を持つ女性として、家庭と子育てと社会の両立の大変さを自ら痛感し、自ら立ち上げ、先頭に立ち、社長を始め、役員共を説得し、成立しました。神奈川県から進めに来た時は、平成20年でした。すでに、行っていたので、弊社は十数年になります。取り入れてしまえば何でもないこと。是非に、町で企業に個別訪問をして、根気よく、粘り強く、進めて、仕事と生活の調和のとれた環境の整った町にしてほしい！</p> <p>○育児や介護等に関する講座等への男性参加に向けては、開催日や内容等を工夫し、前年度の様子や感想などを広報に掲載するなどして、周知を図ってほしい。</p> <p>平成27年度及び平成23年度から平成27年度までの5年間の評価</p> <p>○ワーク・ライフ・バランス推進のためには、特に男性の育児や介護への参加が重要であることから、企業等における制度の普及や子育て環境の充実など、企業等への働きかけを行うような取組みを強化してほしい。また、育児や介護に関する事業については、男性が参加しやすい開催日・時間の設定や効果的な広報などにより、さらに多くの男性に参加してもらえるよう工夫を図ってほしい。</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスの取り組みについては、事業所として取り組む部分も多いが、個々の事業所の状況によって取り組み内容にはどうしても濃淡がでてくる。行政として事業所に対し取り組み推進の働きかけをされていることは理解できるが、一方で取り組みが難しい事業所や労働者に対する支援について検討してほしい。</p> <p>○社会的格差が大きくなっている現在の状況を、労働実態調査などを通じて分析し、雇用環境改善支援へとつなげていく視点にたつての施策がどうあるべきか、現状の事業の概念に捉われずに、独自の展開をも考えてほしい。</p> <p>○子どもは将来を担う宝ですから、地域で大切に育てていけるような、親・地域総ぐるみの視点に立った支援もあってよいかと思う。</p> <p>○今後、社会の急速な高齢化に伴い、介護の問題の増加が予想される。事業番号40の家族介護教室のように技術の講座も必要だが、介護負担が集中しないように介護休暇も含めた介護支援が必要になってくる。</p> <p>○子育て、働く親世代、介護世代、とくらず、また、男・女と分けずに、それぞれがお互いに支えあうような支援、長期的視野にたつた共同参画のための事業の必要性を感じた。</p>



<p>【基本目標Ⅳ】 男女共同参画社会実現のための意識づくり</p>	<p>平成27年度評価</p> <p>○各意識啓発講座について、男性の参加を意識しながら事業を実施している点は評価できる。今後も引き続き、一人でも多くの男性の参加を促すよう、開催日の工夫や効果的な広報に努めてほしい。</p> <p>○ほとんどの事業が再掲であり、「基本目標Ⅳ」としての事業については整理した方が良いのではないかと考える。</p> <p>○各種の講座は多々ありますが少しでも多くの人に参加してほしいのですが、例えば男性だけの講座、女性だけの講座等互いに思いやる気持ちを高める講座を。</p> <p>○父親・母親教室～PTA指導者研修～一般、とさまざまな対象にむけての多彩な講座が開かれ、多くの参加者が受講していることは、大きな評価に値する。引き続き、広報の工夫も加えて、より多くの賛同が得られるような事業展開を期待する。</p>	<p>5年間(H23年度～H27年度)の評価</p> <p>○男女共同参画社会の実現のためには、職場や地域、家庭や学校など、それぞれの場での意識づくりが必要である。また、女性だけでなく男性や若者への意識啓発もますます重要になることから、今後も男性や若者を意識した事業の充実を図ってほしい。</p> <p>○近年、大人向けの講座と同時に子ども向けのイベント(託児も兼ねて?)があるなど、企画への工夫が随所に感じられ楽しみです。今後も引き続き多彩な企画と広報の工夫でより多くの町民の皆さんの参加を得、男女に拘わらずみんなで作り上げる社会というものを楽しく学習しながら、意識向上につなげられるような事業の展開に期待する。</p> <p>○家庭、社会に於いて、異性は関係なく、たがいに、得意な分野を発揮して、感動しましょう。異性を尊敬しあい、心をひとつにして、たがいに、手を差し伸べあい、助け合う。常に異性に感動する、感謝する。そんな風に考えて、暮らせる世の中は、なんて素敵でしょう！でも、これは実現しますよ。理想ではありませんよ。より高い理想を持ちましょう。明るい社会実現の為に意識を作り、高めていこう。</p>
--	---	---